

# KU 三浦半島支部だより

平成19年7月25日発行

第3号

発行者： 社団法人宮陵会（神奈川大学校友会）三浦半島支部 企画・広報委員会

事務局： 鎌倉市津西1-31-15 TEL0467-32-4957

平成19年度総会を母校神大で開催  
～会員の増強と組織基盤の強化を決議～



懇親会は1号館8階食堂で行われた

昨年6月24日に「三浦半島支部設立総会」を開催してから早1年。初めての通常総会が6月16日（土）午後4時から神奈川大学横浜キャンパス8号館8-42講堂で26名（初参加2名、他に特別参加2名）の出席により開催されました。

総会は、葉山地区幹事の中川六郎氏（44年経済）の司会により進められ、席上挨拶に立った古川支部長（40年経済）は「来年、本学は創立80周年を迎え、卒業生は17万人を超えております。大学を取り巻く環境は少子化の時代を迎え、魅力ある大学を目指して生き残るべく検討、努力されており、在校生には夢を与え、卒業生を大切にす基本的方針が醸成されなければ、将来はないと言っても過言ではありません。宮陵会本部の運動方針のなかに、地域支部の立ち上げを含め、支部の充実、会員の増強が企画されています。三浦半島支部でも事業計画案のなかに、支部会員の増強と組織基盤の強化拡充等を盛り込みました。また私見ではありますが、会員のなかには弁護士、税理士他、

語学堪能な方々等、多くの分野で活躍されている方が多数おられますので、異業種交流の場を提供できたらと考えております。最後に、三浦半島支部は会員の皆様の協力、役員の方々の頑張りにより支えられております。この席をお借りし御礼を申し上げるとともに、引き続きご支援、ご協力をお願いいたします。」と挨拶しました。

総会議事は議長に副支部長の砂川正夫氏（44年経済）を選任し、第1号議案「平成18年度活動報告」をはじめ「平成19年度事業計画」など4議案を審議し、すべての議案が原案どおり承認されました。

その後、来賓の紹介および挨拶が行われ、宮陵会本部副会長秋田琢次氏、参議院比例区選挙立候補予定の齊藤つよし氏（44年法律）よりご挨拶いただきました。またこの4月に行われた横須賀市議会議員選挙に立候補し、初当選された松岡和行氏（54年法律、新会員）が司会者から紹介されご挨拶をされました。最後に副支部長内藤正久氏（51年機械）が閉会を告げ通常総会は終了しました。

第二部の記念講演会は、講師に神奈川大学名誉教授（前陸上競技部部長）植田三夫先生を迎え「箱根駅伝と私」という演題でお話いただきました。先生は昭和37年神奈川大学に奉職され、本年3月定年退職されました。鎌倉市にお住まいであり、退職後も非常勤講師として神奈川大学で教鞭をとられておられます。  
〔 記念講演要旨は、次頁に掲載 〕

第三部の懇親会は、宮陵会秋田副会長、植田先生にご出席いただき1号館8階食堂で開催しました。記念撮影後懇親会に移り、篠田拓郎氏（31年貿易）の音頭で乾杯。和気あいあいのなか懇談が続きました。途中で本年5月、横須賀市議会副議長に就任された嶋田晃氏（47年経済）のご挨拶が行われ、元神大応援団の結城康雄氏（40年工経）により校歌を全員で大合唱し「エール交換」を行い、最後は村田龍也氏（39年経済）の中閉めの挨拶で幕を閉じました。

三浦半島支部会員は、今回総会に特別参加された南雲忠男氏（36年法学）が入会されたことから91名となりました。（事務局長 鈴木 稔）

### 記念講演「箱根駅伝と私」の要旨

私は、昭和37年(1962年)に神奈川大学教員に採用され、45年間勤務した。

20年前の7月、当時の萩原学長から「大学活性化の一環としてスポーツ推薦制度ができた。硬式野球部と陸上競技部だ。10月の選考試験でいい選手を集めて欲しい。」と指示された。

一旦はお断りしたが、結局承諾した。全国110校の高校に推薦依頼のダイレクトメールを送付したが、返事は数校に過ぎなかった。

二流選手でスタートしたが合宿所、専門の練習場もなく、モチベーションは上がらなかった。その後、後援会の支援で合宿所やマイクロバスを確保。レベルの高い他大学との合同合宿で選手の意識も変化した。

発足5年目に箱根予選会を突破し、夜間照明のついた神大付属中・高グラウンドの練習場も確保できた。選手の体力、技術、精神力が良いとチームも強くなる。特に練習以前の心構え(自己管理)が大切だ。勝負の世界は、いくら努力しても負けることがある。

(記録原柳作)

3年連続し合格、卒業生も5名合格した。これにより神奈川大学からの合格者は11年連続となった。

[合格者の氏名]

- ◎ 経済学部4年 新田 昌弘 氏
- ◎ 法学部卒業 足立 直子 氏
- ◎ 経済学部卒業 中矢 浩司 氏
- ◎ 経営学部卒業 波多野 完治 氏
- ◎ 経営学部卒業 青木 茂 氏
- ◎ 外国語学部卒業 小淵 真吾 氏

神奈川県副知事に羽田 慎司氏(昭和46年第二法学部卒業)が就任

「腹をくくって全力投球する」。6月1日付けで神奈川県副知事に就任する。

2001年から出向した県競輪組合での実績が松沢成文知事の目に止まった。組合は出向時に36億円の累積損失を抱えていたが、運営の民間委託や職員のリストラを断行。就任3年目で単年度黒字を達成した。その手腕と現場感覚を買われた。

一緒に働いたことのある職員は「気さくだが仕事には厳しい」と口をそろえる。「民間企業と同じくらいのスピードと、県民が求めているものを見極めるセンスが大事」というのが持論だ。商工労働部長の時には松沢県政一期目の目玉となった企業誘致策「インベスト神奈川」の制度設計を半年足らずで仕上げた。

留任する尾高副知事に続いての県庁内部からの起用となる。県庁で働きながら神奈川大の学位を取った努力家。松沢県政二期目のカギを握る県議会との関係改善では身上の粘り強さを発揮しそうだ。

(はた・しんじ、前県総務部長。昭和46年第二法学部法律学科卒業)

(注)最近の神奈川大学卒業生の副知事は、岡崎洋知事に仕えた伊藤文保氏(昭和39年第二法経学部経済学科卒業)に続き2人目。この記事は日本経済新聞5月24日号より転載しました。

## 神大トピックス

公認会計士試験に3年連続現役生合格

~神大からの合格者は11年連続~

会計部門の資格試験としては、最難関といわれる公認会計士試験(平成18年度実施)に神奈川大学現役生が

## 2007年3月卒業者の就職状況

進路決定率は81.6%と5.7ポイント上昇

2007年3月卒業生の就職環境は、バブル期に次ぐ求人総数(82万5千人)となり、求人倍率も1.89倍で、前年比0.29ポイントの上昇となり、一部マスコミでは、売り手市場と報道された。

この環境下、神奈川大学の就職率(卒業生数に対する就職率)は、全学部で73.8%(前年69.8%)となり、4.0ポイントの上昇となった。また大学院進学を含めた進路決定率は81.6%(前年75.9%)となり、5.7ポイントの上昇となり、昨年に引き続き改善された。

2007年3月卒業生の就職状況を学部別に見てみると全学部で昨年を上回っており、雇用環境の改善が伺える。さらに文系・理系別進路状況では、文系の就職率は75.7%、理系は69.9%となっており、就職率だけを見ると文系が理系を上回っている。しかし、進学率を比較すると、文系は2.3%、理系は19.1%となっており、就職・進学を含めた進路決定率においては理系が有利になっている。

理系の進学率は昨年より増加しており、これは研究・開発職においては採用条件が大学院修士以上としている企業が多いことがあげられる。特に化学系では応用化学科32.0%、生物科学科26.5%の進学率になっており、研究職希望の学生が多いことがわかる。

神奈川大学では、2006年度入学者から「キャリア形成」科目を正課の授業科目として開講した。この科目は、1クラス50名程度とし、その中を6名ずつのグループを作り、グループワーク主体の授業形態で、グループ内で常にディスカッションをしながら進めていく学生主体の授業となっている。そのため、コミュニケーション能力も身につけ、友達作りの一助にもなっている。

受講した学生のアンケート評価も、90%以上の学生が総合的に満足しており、学んだことの活用範囲も、就職活動だけでなく、学生生活全般、自己分析、将来のビジョン形成に役立つと考えている。

現3年次生に対するキャリア形成・就職支援については、4月から開始し、就職活動の流れや自己分析、業界・職域研究の方法等や、模擬試験、面接対策講座等実践的講座となっている。

現4年次生の支援については、6月中旬に180社の企業を学内に招き、合同企業説明会を開催し、さらに11月にも企業説明会を予定している。就職希望の学生が、しっかり就職できるよう、個別相談を中心に支援を行っていく。

(2007年3月卒業者の学部別就職先上位10社)

(法学部)

神奈川県警察本部13 三菱東京UFJ銀行6  
みずほフィナンシャルグループ4 東急リパブル  
4 住友生命3 USEN3 大和証券SMBC2  
東京特別区2 横浜市役所2 警視庁2

(経済学部)

みずほフィナンシャルグループ12 横浜銀行8  
三菱東京UFJ銀行4 東急リパブル4 日本通運  
3 東京都庁3 日本生命3 HIS3 東京海上  
日動火災保険2 日産車体2

(経営学部)

総合警備保障6 日興コーディアルグループ4  
積水ハウス3 大和ハウス工業3 神奈川県警察本  
部3 第一生命3 野村証券2 日本通運2 松下  
電器産業1 伊勢丹1

(外国語学部)

HIS5 住友不動産販売3 第一生命2 朝日新  
聞社1 全日本空輸1 日本航空インターナシヨ  
ナル1 東日本旅客鉄道1 近畿日本ツーリスト1  
帝国ホテル1 神奈川県教員1

(理学部)

神奈川県警察本部3 NECソフト3 メリーチ  
ョコレートカンパニー3 ヤフー2 住友化学1 明  
治乳業1 中外製薬1 NOK1 東陶機器1 東  
京都庁1

(工学部)

東日本旅客鉄道5 キヤノン4 高砂熱学工業4  
神奈川県警察本部4 大和ハウス工業3 アマダ3  
鹿島建設2 本田技研工業2 日産自動車2 東海  
旅客鉄道2

(就職部就職課。「学園ニュースかながわ」より)

## 神大・りそな銀行包括提携で合意

～ 産学連携など4項目 ～

神奈川大学とりそな銀行は7月5日、産学連携を含む包括的な提携協定を締結した。

協定内容は①大学発地域社会活性化への取り組み推進②インターンシップ受け入れ先の紹介③神奈川大法科大学院無料相談の活用④産学連携の推進の4項目。りそな銀行は現在、関西大学や東京工科大学など4大学と包括提携をしている。



包括提携調印式で白井理事長と岡村りそな銀行副社長

具体的には、りそな銀行が展開するリーナルプロジェクトと連携し、大学発地域社会活性化を推進する。学生、大学職員と銀行社員約15名でワーキンググループを立ち上げ、第1回ミーティングでは商店街活性化への取り組みや大学祭の地域への広がりについての意見交換が実施された。学生インターンシップ受け入れ先の紹介については、りそな銀行の取引先ネットワークを活用し、受け入れに積極的な企業の紹介を行うことで地域と大学の連携を深める。りそな銀行は、8月に神奈川大学より20名程度、学生インターンシップを受け入れ神奈川地域店舗で実地研修を行う予定。

また田島和夫工学部教授が開発した「スーパー・エマルジョン燃料」の実用化に向け、協力企業紹介など、りそな銀行がネットワークを通じて大学の研究開発と企業とのマッチングを実施するものです。

りそな銀行の岡村裕副社長は、神奈川新聞記者の取材に対し「神奈川大学は県内有数の総合大学で、地域に根ざした活動を展開していることが、りそな銀行の思想と合致する。互いのネットワークや問題解決能力を発揮することで、地域社会貢献が促進されると確信している」と述べられた。

## 役員会開催状況の報告

〔平成18年度第4回役員会〕

開催日時 平成19年3月15日(木)  
18時30分

場所 逗子市 そば庵御清水庵「あん彦」

参加人員 11名

議題

- (1) 本年度の活動報告について
- (2) 通常総会の日時・場所の検討について
- (3) 通常総会提出議案・活動方針(素案)の検討について
- (4) 会員の増強および役員の補充選任について

(報告事項)

1. 通常総会は6月16日(土)午後4時から神奈川大学横浜キャンパスで行うことを決定。
2. 総会次第(素案)等の検討を行う。次回役員会で細部について詰めを行うこととした。

〔平成19年度第1回役員会〕

開催日時 平成19年5月18日(金) 18時

場所 葉山町 「魚佐」

参加人員 11名

議題

- (1) 支部総会について
- (2) 三浦半島支部だより第3号の発行について
- (3) ゴルフ会第3回オープンコンペの開催について

(報告事項)

1. 支部総会開催要領(案)、事前検討項目について協議を行い、総会当日の役割分担等を決定。
2. 支部だよりは7月に発行する。
3. オープンコンペは、7月13日(金)葉山国際カントリー倶楽部で開催する。

## 支部同好会通信

### 第1回「歩こう会」鎌倉・天園コースハイキングの報告について

世話人 篠田 拓郎

2月24日(土)、JR鎌倉駅表口に午前10時に集合し、京急バスにて鎌倉宮(大搭宮)へ向かい、境内で天園コースの案内と軽い準備体操を行った。参加者は子供1人を含む男女16名。古川支部長、篠田、小池両担当で山登りの注意事項を説明したあと、神大の小旗を先頭に徒歩で天園コース(別名・鎌倉アルプス)の二階堂ルートを歩くことにした。

先頭を篠田が案内、二階堂川沿いを源流に向かい、獅子舞の谷の木立の中を進み、銀杏の大樹が林立する道を登った。秋の紅葉が素晴らしいところで有名、11月末から12月初めが見頃なのでその頃、また歩こうと話した。楓、もみじの林を抜けると急登りになり、皆元気な足取りで登った。

天園に着き、展望台より眺めると由比ヶ浜、材木座海岸が眼下に広がり、その景観を楽しんだ。富士山が良く見えるところだが、雲があって残念ながら遠くは霞んでいた。

茶屋で休憩、各自持参の弁当で昼食。ワンカップやビールを注文する者も出て和気あいあいのひと時、記念スナップを撮ったりし賑やかだった。午後は鎌倉カントリーのゴルフ場とクラブハウスを右に眺めながら、大平山の尾根をゆっくりと歩く。クラブハウスの横の広場は、家族連れがあちこちで弁当を食べて休んでいた。ここには岩山があり、登りのスリルも楽しめた。支部長がスナップを撮り、宮陵会の旗を広げ全員で記念撮影。砂川さんの孫の女の子が一番元気で驚いた。

森林浴を楽しみながら予定の時間通りに歩いた。十王岩で小休止。十王岩から麓の八幡宮、段葛から一の鳥居まで一直線になっているのは、鎌倉幕府が平安京のよう

な豪華な都を造ろうと考えた都市計画の名残りだそうである。勝上嶽から半僧坊に下り、建長寺境内に入る。

建長寺は、臨済宗建長寺派大本山で鎌倉五山の一位、広い境内を見学しながら山門を出る。巨福呂坂を八幡宮へ向かい、途中美術館の隣の喫茶店で休む。今日のコースについて談笑した。鶴岡八幡宮に参拝し、小町通りを歩き商店街で散会した。

有志で「魚河岸」に立ち寄り、無事ハイキングができたことを喜んで歓談した。

次回のコースを企画し、また多くの参加者を期待したい。

### 3組12名で第3回オープンコンペを開催

～7月13日 葉山国際カンツリー倶楽部～

三浦半島支部ゴルフ会では、7月13日(金)葉山国際カンツリー倶楽部エメラルドコースで第3回オープンコンペを開催しました。今回の参加者は、初参加の籠田隆康さんを含め12名で、最も参加者が多い大会になりました。



第3回オープンコンペ参加者全員で記念撮影

当日は、梅雨前線が本州南岸沿いに停滞、強力な台風4号が沖縄諸島に接近し、降水確率60%と悪条件が重なりました。しかしながら午前中は曇り空から霧雨、午後は小雨が降りましたが、プレイには影響もなく無事終了しました。今回のコンペは前回同様新ペリア方式で行い、成績は下記の通りです。競技終了後、クラブハウスで表彰式を行なった後散会しました。

次回のコンペは秋に開催予定です。ゴルフを楽しまれている方は、ご参加をお願いいたします。なお今回から優勝者が「支部だより」の原稿を執筆することになりま

した。

〔成績〕

		グロス	ネット
◎ 優勝	鈴木 稔	105	74.3
◎ 2位	石井 和行	103	74.6
◎ 3位	古川 勝彦	95	74.9
◎ ニアピン	田中 久夫	原 柳作	
◎ ドラゴン	鈴木 和夫	武笠 健次	
◎ ベスグロ	鈴木 和夫	93	

(記 鈴木 稔)

ゴルフ会参加希望者は下記までご連絡ください。

連絡先：中川氏 携帯 090-9003-2499  
 自宅 046-875-4360  
 メール nakaroku@jcom.home.ne  
 〒240-0111 葉山町一色1087

## 会員からの短信



会員の皆様からの原稿を募集しております。  
 学生時代の思い出、趣味、旅行記、仕事のこと  
 等テーマは自由です。次号は来年2月頃に発行  
 予定です。

字数は1,600字以内でお願いいたします。

(送付先)

〒239-0835

横須賀市佐原3-21-33 鈴木 稔

メール ne2tf6@bma.biglobe.ne.jp

### 第1回支部総会無事終了に寄せて

角谷 彰

先月6月16日開催の大学1号館食堂での懇親会は無

事終了しましたが、大変感慨深い集いでした。

支部設立後、わずか1年しか経過していないのにも拘わらず、三浦半島各地区から大学OB・OGが年代、卒業学科を問わず26名も駆けつけてくださったからです。

これは支部設立以来、労力を惜しまず尽くして下さいました役員の方々の努力の賜物に他なりません。かくいう私は、支部の手伝いを始めて未だ1年弱の駆け出しです。



植田名誉教授の記念講演会

見晴らしの良い母校の8階で、先輩、後輩と杯をかわす雰囲気は格別なもので、めいめい在学中や卒業後の思い出話に花を咲かせ、どのテーブルも時間がたつのも忘れてしまうほどの盛況でした。

加えて植田名誉教授の講演も素晴らしく、箱根駅伝へ毎年鍛え上げた選手を送り続けた陸上競技部部長の苦労話を、人情味あふれた語り口で、時には力強い気迫のこもった話しぶりで、聞く者の胸を強く打つものでした。特に97年、98年の母校が2連覇したときの部長の経験談には感激しました。

さて、無事に支部総会は終えましたが、今後この素晴らしい総会を、未だ知らない卒業生に語りかけ、一人でも多く支部への入会を呼びかけようではありませんか。

私は、昭和37年電気工学科卒業で、当時厳しかった岩佐教授のもと電力中央研究所で卒論を仕上げ、三菱電機に入社。学生時代に予想もなかった航空自衛隊戦闘機のレーダーと晩年は、宇宙開発事業団の人工衛星を担当し、全国の基地を駆け巡っていました。

定年後は、趣味のテニスと地域奉仕に毎日明けくれています。

(昭和37年工学部電気工学科卒業)

部屋にあったLPアイクアンドティナターナ  
…… 今も続くゼミナール

中川 六郎

大熊信行 おおくまのぶゆき  
1893・2～1977・6



大熊信行

経済学者・評論家・歌人。  
山形県米沢市生まれ。東京  
高商専攻科卒。小樽高商、  
高岡高商、富山大、神奈川  
大、創価大各教授。戦前、  
戦後の50年、多方面に論  
陣を張り、論壇の1匹狼と  
呼ばれた。

私が、神大に入学した昭和40年(1965年)、大熊信行教授は一般教養の経済学の講義を担当されていた。最初に講義を受けた時、高価であった携帯用テープレコーダーを持ち込んで、ゼミ生に講義録をとらせていたのが印象的であった。またシックなスーツにベレー帽を被りショルダーバックを肩にかけて颯爽と歩く姿はダンディそのものだった。

伊藤整が『若い詩人たちの肖像』(新潮文庫1958年)の中で「イブセンを学生といっしょに読んでいた赤ら顔の長身のダンディに見える大熊信行を思い浮かべた」とその印象を書いているように欧米で留学された先生に、洗練された風格を感じない人はいなかったであろう。

大熊先生のゼミナールはレポート提出など厳しい内容であったが、ゼミの学生を講演やシンポジウム、そして新聞社や出版社で執筆した原稿の校正などに連れていかれた。また卒業生も一緒にピアホールや高輪の自宅に招いて、ご馳走しながらテーブルマナーなど課外講義もよくされた。赤坂のディスコムUGENに繰り出した話しも先輩達からよく聞いた。

大熊先生が昭和52年(1977年)6月20日、84歳で亡くなって30年になる。その2年後、昭和36

年ゼミ第3回卒業生の榊原昭夫氏など先輩諸氏のご尽力により大熊信行研究会が発足し、会報の発行と共に会は今日まで続いている。

会の主旨は「大熊の人と思想・文学・学問上の業績を、さまざまな角度から検討。研究・整理する広場を設けるとともに、大熊が問題意識をいだいていたさまざまな領域についての、自由な討論の場を設けようとして発足した。」としている。

毎年6月に出版クラブ会館で開かれている大熊信行研究会例会の講師と演題の一部を紹介しよう。柴田高好「戦後民主主義と『国家悪』」、板垣興一「大熊先生の人と学問」、篠原三代平「大熊経済学の印象」、鶴見俊輔「大熊信行における文学」、いいたもも「大熊信行の思い出」、伊藤善一「大熊信行の人と学説」、神川正彦「大熊信行・神奈川大学・生命思想」等々である。この6月の講師は早稲田大学非常勤講師榊原健氏で、演題は「大熊信行の夏目漱石論」であった。大熊信行研究会は神大出身者だけではなく、富山大学や創価大学のゼミ出身者、大熊先生に関係のあった学者、研究者、新聞、出版人、一般の方々が多く参加している。

この研究会と平行して、昭和34年ゼミ第1回卒業生の出町昭六先輩が世話役で開いている「大熊ゼミ同窓会」もある。近年、年3回の定例会があり毎回、参加者の一人が自由な題で報告している。5月に神保町区民館で開かれた出席者の名前をあげておこう。34年卒の出町氏と十和田市から来られた藤島氏、36年卒の榊原氏、37年卒の紅一点伊藤みつほ氏、40年卒の香原氏、42年卒の土屋氏(旧姓秋山)、町屋氏、45年卒の井田氏、関氏、県会議員服部の各氏と中川の11名であった。

この日の報告は、香原氏で「私の故郷(福岡県田川郡香原町)」というテーマで、思想的背景、郷土愛、政治、地理、宗教、教育、産業、文学と多岐にわたるキーワードから香原氏の故郷が語られた。

最後に私は、マスコミの世界で働くことを希望して、理工学書の出版社オーム社に入社した。38年間に、営業、編集、宣伝、商品管理などの仕事をさせていただいた。学生時代から大熊先生に新聞社や出版社に同行させていただいたので、出版という世界にもすんなり入っていくことができた。日立や東芝などのメーカーの取材や、パーティなどで朝日や読売新聞社の社長などとも臆することなく接することができた。

大熊先生の研究対象は、経済学から、政治、思想、文学、芸術と多岐にわたり、学者として止まることなくジャーナリズムの世界でも広く発言されていた。大熊先生のもとで学生時代から卒業後も多くのことを学ばせてい

ただ、私も出版人として必要な広い視野を身につけることができたと思う。それを考えると、人生の基礎となる目に見えない大きな財産を身につけることができた大学のゼミナールのすばらしさとその制度をもっている母校を誇りに思う。

(昭和44年経済学部経済学科卒業)

大学生活38年 未だ卒業出来ず

塩塚 定雄

先日、事務局長の鈴木さんから、支部だよりの原稿依頼を受けましたが、さて何をテーマに書いたら良いか迷いました。やはり大学生活が長いので、その辺のところを書かせてもらうことにしました。

私は昭和44年4月に、神奈川大学に入学しました。夜間部ということで、昼間は1年間ほど日の出町にある証券会社でアルバイトをしていました。ある日、学内掲示板で臨時職員募集の案内を見つけ、応募したところ採用になり、以降正職員にいただき今日まで38年間、いまだ卒業出来ずと言ったところです。

大学では、図書館を皮切りに、就職部、平塚図書室、学生部と学生サービス部門を中心に勤務してきました。昨年4月より現在の情報化推進本部で、ネットワーク等、大学全体の情報化計画を推進する法人関係部門で働いています。

在学中は、教員志望でしたので、1日3時限、1週間18コマと目一杯の履修登録をし、4年間で教職課程を含め163単位を修得しました。

もっとも、出席をとる授業は1/3程度で、私が在籍した70年代前半は学園紛争が盛んな時期で、休講や封鎖によって定期試験ができなくなり、レポート提出で単位認定がされる状況にも幸いました。

学内で働かせてもらったおかげで、授業をさぼることなく、バスケットボール部に入部し、富岡倍雄先生の新興経済論のゼミにも入ることができ、多くの友人に巡り合うことが出来ました。

決して、政治や現状に無関心なノンポリではなかったことも、付け加えておきたいと思います。

教員志望の私にとって、大学職員になったことは、ベ

ストではないけれど、ペタペタな選択ではなかったかと思います。特に学生と接することが出来る部署で、長年働かせてもらったことで、若さと、若者気質を感じ取って生きてこられたことが大変良かったと思います。

今や、子供や孫の世代が大学に入学してきます。今年大学に入学してきた学生は、平成1~2年生まれ、学生と機動隊が衝突したことなど、知る由もないでしょう。休み時間に、激論を闘わせている風景を、今は見ることもなくなりました。

大学は整備され、女子学生も25%入学してきています。地方出身者は減少し、70%近くが神奈川を中心とする首都圏近郊からの入学者となっています。

大学進学率は、我々世代の10%台から、今や40%台へと伸び、少子化が進む中、大学は全入時代へと移りつつあります。今や大学は選ばれるようになり、定員割れする大学や学科も出つつあります。

我々は団塊世代と言われ、常に競争社会の中で生きてきたように思います。世間では2007年問題と呼び、我々の行く末がいろいろと論じられています。

バスケットボール部OB会事務局長として学生とも関わっていますが、先日その男子バスケットボール部が関東大学新人戦で、駒沢、早稲田、専修大学等を破り6位入賞を果しました。これは創部以来の快挙です。

定年まであと8年、さらに若々しく、学生に交わって働きたいと思います。

支部活動におきましても、微力ですがお役に立てればと思いますので、今後ともよろしくお願いします。

(昭和48年第二経済学部貿易学科卒業)

忘れてはならぬこと

星山 正範

時が流れるのは速いもので、気がつくと大学を卒業して10年が過ぎた。大学生であった当時柔道部であった私は、金銭的にも余裕もなく、アルバイトをしながら部活動を行っており、時間的にも金銭的にも余裕がなかったが充実した学生生活を過ごしていたように思う。

4年生になり、部活動を引退し卒業研究に入った。最初は就職活動もあり研究も進まなかったが、就職が決ま



ると毎日研究室で朝から、深夜まで実験をする毎日になった。そのかいもあって、卒業研究で行った内容を日本化学会で発表させてもらった。

当時の応用化学科の教授陣は、研究論文の発表数で国立大学に勝てるよう頑張ろうという気概があり、我々学生は卒業研究を行う1年間は遊ぶ暇もなく研究したという思い出がある。

しかし大変な1年間であったが、今ではこの経験が私を鍛えてくれたと感謝している。

現在は中学校の教員をやっているのだが、朝7時に出勤し部活動(陸上競技部の顧問)の朝練を指導し、1日授業を行った後部活動の指導を行い、午後7時から事務作業が始まる。学校から帰宅するのは毎日午後10時以降という生活をしている。土曜日は試合か練習が必ず入り、場合によっては日曜日にも試合になる。しかし、卒業研究の経験があるおかげで「あの時のあの大変さに比べれば・・・」という気持ちで毎日の勤務に向かうことができるし、大変ではあるが、努力の先に得るものが必ずあると信じて仕事に向かうことができる。

苦勞を厭わない姿勢を教わったことで、陸上経験のない私がなんとか全日本中学校陸上競技選手権大会を経験することができ、うれしいと同時に忙しかった大学生生活に感謝している。

しかし、私が経験してきた学生生活とは正反対のようだが、最近では効率を重視してできるだけ楽をして結果を出すことが良いといった風潮がある。おそらくは利益を追求する企業の論理ではそれが正しいのだろう。しかし、「苦勞を厭わない」、「実直」、「勤勉」、「素直」といった日本人の持っている美徳は大切にしていって欲しいと切に願っている。

私が在学していた頃の神奈川大学はそういうものを学生に教えてくれていたように思う。校舎も建て直しハードウェアの部分で大学もどんどん近代化してはいるが、近代化の中にあっても教育方針というソフトウェアから大切なものを失わないでいて欲しい。

たいした力にはなれないだろうが、卒業生として私も出来る限りのバックアップをしていきたいと思う。

神奈川大学がますます発展してくれることを願いつつ、ここに筆を置く。

(平成9年工学部応用化学科卒業)

## 支部年会費納入状況

(平成19年7月20日現在)

[平成20年3月まで納入者]

(鎌倉)	小永井 潔	篠田 拓郎	川瀬 元夫
	岩崎 英昭	山岸 一輔	
(逗子)	山本 厚	石渡 浩	
(葉山)	中村 進	小池 邦夫	中川 六郎
	周藤 亜矢子		
(横須賀)	鈴木 昭利	島 久喜雄	沖 丞
	萩原 孝	角谷 彰	上原 章道
	石渡 敏夫	塚田 尚	中垣 正幸
	籠田 隆康	相原 充	南雲 忠男
	伊澤 隆雄	箕輪 義夫	加藤 麻貴子
	青山 隆一	鈴木 康介	二井 美恵子
	星野 由希子		

[平成22年3月まで納入者]

(鎌倉)	小澤 光	石井 和行	若林 秀明
	北野 紘一	古川 勝彦	飯田 秀男
(逗子)	岸本 光瑞	松本 育雄	千葉 毅一
(葉山)	岩澤 正之	石渡 俊一	
(横須賀)	山内 元式	森 茂	八嶋 政臣
	中山 廣男	石井 一男	落 勝廣
	菊池 武	村田 龍也	結城 康雄
	長谷川征勝	金井 昌孝	熊澤 勝喜
	寺脇 敏彦	早川 勝繁	福島 康臣
	砂川 正夫	森下 守久	鈴木 稔
	野村 晴男	田中 久夫	嶋田 晃
	塩塚 定雄	舟崎 学志	内藤 正久
	清水 英樹	星山 正範	新藤 優
	工藤 真也		
(三浦)	原 柳作	石渡 大湖	

[平成23年3月まで納入者]

(鎌倉)	矢澤 基一	(横須賀)	島海 洋義
	松岡 和行		

会費納入者 74名

会費納入のお願いについて

年会費未納の方お振込をお願いいたします。  
 郵便振替受入口座 00290-5-95815  
 宮陵会三浦半島支部  
 横浜銀行口座 久里浜支店 代表 鈴木 稔  
 普通預金 1747984  
 宮陵会(神奈川大学校友会)三浦半島支部  
 会費は年間3千円。4年前納は1万円です。

事務局からのお知らせ

〔 支部会員になられた方のご紹介 〕

次の方々が三浦半島支部の会員になりました。

( 敬称略 )

南雲 忠男	昭和36年Ⅱ法律	横須賀市岩戸
矢澤 基一	昭和44年経済	鎌倉市常盤
松岡 和行	昭和54年法律	横須賀市長井

〔 学生課外活動(運動部)の動向 〕

- 水泳部 種田 恵 世界競泳2007年イン・ジャパン出場 8/21~24 千葉県国際総合水泳場
- 準硬式野球部 59回全日本準硬式野球選手権大会出場 8/18~23 宮城フルキャストスタジアム他
- 横浜軟式野球部 30回全日本学生選手権大会出場 8/18~22 豊田市運動公園野球場
- 平塚軟式野球部 30回全日本大学選手権大会出場 8/6~10 東京ドーム他
- 陸上競技部 39回全日本大学駅伝関東学生陸上競技連盟推薦校選考会 6/23 代々木公園陸上競技場 12位で本大会出場権を失う



●所在地 〒250-0631 足利下部箱根町大字仙石原1104-1  
 TEL: 0460-4-9611  
 ●交通案内 ■バス利用の場合…小田原駅前/仙石経由湖尻行き仙石下車徒歩10分 ■車利用の場合…○横浜I.C.-(東名高速道路)-御殿場I.C.-(国道138号線)-箱根保養所



●所在地 〒393-0055 長野県諏訪郡富士見町立沢字広原1-1194  
 TEL: 0266-66-2610  
 ●交通案内 ■JR利用の場合…中央本線急行2時間40分○新宿-小淵沢駅(急行停車)→タクシー20分(3,500円程度) ○新宿-富士見駅(急行停車)→タクシー15分(3,000円程度) 富士見駅から研修所までマイクロバスの手配ができます。詳細は次の番号にお問合せ下さい。■諏訪バスTEL: 0266-72-7141 ■車利用の場合…○横浜-東京(中央高速道)-小淵沢I.C.(料金所出てすぐ右)-八ヶ岳周遊道路(原村方面※見岳橋、照明付の橋です渡ってすぐ右登) ○タクシー…小淵沢駅より約20分・富士見駅より約15分 ○中央高速道路利用…小淵沢I.C.より約20分

お気軽にご利用ください  
**神奈川大学保養所ガイド**  
 ☎ 045-481-5661  
 神奈川大学総務へ直接お問い合わせ下さい。

～ 編集後記 ～

神奈川大学通信「神大スタイル264号」が大学広報部より送られてきましたので、「三浦半島支部だより3号」と一緒にお届けいたします。神大スタイルは最新情報が満載で、いつも元気ももらっております。広報部職員の皆様、今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

毎回頭を悩ますのは、掲載記事の内容です。またパソコン操作方法を忘れてしまうなど、悪戦苦闘の連続ですがなんとか完成しました。本年度は支部会員増強の年です。お知り合いの卒業生がおられましたらご紹介をお願いいたします。(S)